

プログラム

会長講演

10月29日(土) 13:00～14:00

第1会場

治療における「当事者に対するレジリエンスを意識したアプローチ」 の提案ーうつ病を例にとってー

座長：大野 裕 (大野研究所)

演者：渡邊 衡一郎 (杏林大学医学部精神神経科学教室)

教育講演

教育講演 1

10月29日(土) 10:40～11:40

第1会場

森田療法とレジリエンス

座長：黒木 俊秀 (九州大学大学院人間環境学研究院)

演者：中村 敬 (東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科)

教育講演 2

10月29日(土) 14:30～15:30

第2会場

神経科学・神経化学におけるレジリエンス研究

座長：田島 治 (はるの・こころみクリニック)

演者：田中 謙二 (慶應義塾大学医学部精神神経科学教室)

教育講演 3

10月29日(土) 16:00～17:00

第2会場

身体疾患患者のストレス・心理的支援について：ケアの対話の「コツ」

座長：岩満 優美 (北里大学大学院医療系研究科 医療心理学)

演者：堀越 勝 (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター)

教育講演 4

10月30日(日) 10:30～11:30

第1会場

様々な場面におけるレジリアンス

座長：八木 剛平 (翠星ヒーリングセンター・おおぞらクリニック)

演者：加藤 敏 (小山富士見台病院)

ワーク・ライフ・バランスとストレス

座長：金生 由紀子（東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野）

演者：島津 明人（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野）

シンポジウム

シンポジウム 1

10月29日(土) 9:10～10:40

第1会場

ストレスとパーソナリティの相互作用がメンタルヘルスに及ぼす影響 Influence of the interaction between stress and personality on mental health

【企画趣旨・狙い】

近年、パーソナリティと小児期虐待、成人期ストレスの3要因が複雑に交互作用し、不安、抑うつなどのメンタルヘルス悪化をもたらすことが様々な臨床研究により明らかになってきた。したがって、家庭や社会、職場におけるストレスのメンタルヘルスに及ぼす影響を考慮するときには各個人のパーソナリティを評価し、個人のストレス脆弱性あるいはレジリエンスの観点から、ストレスの影響を検討する必要がある。このような視点をもつことにより、よりの確なストレス対処、介入が可能になると期待される。本シンポジウムの目的は、パーソナリティとストレスの相互作用がメンタルヘルスにどのように影響するかについて、様々な観点から各シンポジストに論じてもらい、両者の相互作用についての理解を深めることである。

座長：中島 聡美（福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター）

井上 猛（東京医科大学精神医学分野）

S1-1 一般成人におけるストレスとパーソナリティの相互作用

井上 猛（東京医科大学精神医学分野）

S1-2 うつ病におけるストレスとパーソナリティの相互作用

戸田 裕之（防衛医科大学校精神科学講座）

S1-3 犯罪被害者遺族のメンタルヘルスとレジリエンス

中島 聡美（福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター）

S1-4 TEMPS-Aによる気質とストレスの相互作用

秋山 剛（NTT 東日本関東病院）

ストレスチェック制度における課題 Challenges of Stress Check-up System

【企画趣旨・狙い】

2015年12月よりストレスチェック制度が開始された。ストレスチェック制度については、施行前より様々な課題があげられてきたが、実際に施行されてから見えてきた問題点も少なくない。中でも、産業医の役割や外部資源との連携については、これまでの職域メンタルヘルス活動が抱えていた問題点を浮かび上がらせる機会にもなっており、今後の対策を考える良いきっかけになっている。本シンポジウムでは、ストレスチェック制度における事業場の対応、それを支援する事業場資源との連携などについて現状の課題を整理し、ストレスチェックの法的留意点も含めて今後の制度運用について検討していただきたいと考えている。

座長：田中 克俊（北里大学大学院医療系研究科）

S2-1 ストレスチェック制度の活用のための提言

野村 忍（早稲田大学人間科学学術院）

S2-2 ストレスチェック制度における事業場外資源との連携

湯佐 真由美（国際EAP研究センター、ピースマインド・イーブ株式会社）

S2-3 ストレスチェック制度運用上の法的留意点

三柴 丈典（近畿大学法学部法律学科、産業保健法学研究会）

東日本大震災から考えるレジリエンス Resilience from experience of the Great East Japan Earthquake

【企画趣旨・狙い】

東日本大震災という未曾有の災害が起こり、多大な被害が東北地方を中心に生じた。メンタルヘルス上のさまざまな影響が認められ、未だ多くの方が苦痛を抱えながら生活をしていることは言うまでもないだろう。そのような中でどのように困難と向き合い、復興に向けた視点を持てるようになっていくのか、個々の被災者や地域における変化というものは、「レジリエンス」という観点を抜きに語ることはできない。本シンポジウムでは、東日本大震災の発生から今日まで最前線で対応してきた3名の演者から、災害の中で見えてくるレジリエンスとは何かに始まり、関連する因子や実際にどのようにレジリエンスを活かしてきたのか、といったことを中心に議論を展開していきたい。

座長：大塚 耕太郎（岩手医科大学神経精神科学講座、岩手県こころのケアセンター）

菊地 俊暁（杏林大学医学部精神神経科学教室）

S3-1 災害支援者におけるトラウマとレジリエンス

重村 淳（防衛医科大学校精神科学講座）

S3-2 東日本大震災における子どもへの影響とレジリエンス ～福島での経験から～

榊屋 二郎（東京医科大学茨城医療センター精神科）

S3-3 東日本大震災のこころのケアから考えるレジリエンスとは

大塚 耕太郎（岩手医科大学神経精神科学講座、岩手県こころのケアセンター）

シンポジウム 4

10月30日（日）9:00～10:30

第1会場

医療従事者・支援者のストレスケア

Stress Care for Health professionals

【企画趣旨・狙い】

医療の複雑化や効率主義に伴い、医療従事者に対する負荷は以前にまして増えつつある。医療従事者への心理負荷は燃えつきや抑うつにつながり、患者ケアの質の低下に帰結する。本シンポジウムでは、ケアする側のストレスケアをどう考えるべきか多面的に討論する。保坂先生には、「勤務医の健康支援に関するプロジェクト」の結果などを踏まえながら、医師のストレスの頻度、関連因子などについてお話しいただく。野末先生には看護職のストレスとそのケアについてお話しいただく。福森先生には医療者すべてに共通するストレス要因として、共感疲労についてお話しいただく。伊藤先生には、それらを踏まえてストレス緩和の方法としてのマインドフルネスを含む医療者の心理ケアについてお話しいただく。

座長：藤澤 大介（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、慶應義塾大学病院緩和ケアセンター）

朴 順禮（慶應義塾大学看護医療学部）

S4-1 医師のストレス

保坂 隆（聖路加国際病院リエゾンセンター精神腫瘍科）

S4-2 看護師のストレス予防と対処のためのアサーション・トレーニング

野末 聖香（慶應義塾大学看護医療学部）

S4-3 医療従事者の共感疲労とその特徴

福森 崇貴（徳島大学大学院総合科学研究部社会総合科学部門人間科学系（心理学分野））

S4-4 ホスピス緩和ケアに携わる医療従事者に対するマインドフルネストレーニングの効果

伊藤 義徳（琉球大学教育学部）

ストレスチェック どのように実施し、活用するか Stress Check. How to proceed and utilize

【企画趣旨・狙い】

ストレスチェックは昨年12月から一定規模以上の事業所に対して実施が義務付けられるようになりましたが、これを如何に効率よく実施し、結果を生かして行くかは職場の健康管理に視点から大変大きなテーマとなっています。そうしたことについて各シンポジストからそれぞれのお立場からの有用な情報や経験を情報提供していただくようにし、可能ならば、全体討論や質疑応答を組み込めればと考えています。

座長：角田 透 (杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

S5-1 ストレスチェックをどのように行うのかー質問票作成者の立場から

下光 輝一 (公益財団法人健康・体力づくり事業財団、東京医科大学)

S5-2 ストレスチェック実施に際しての留意点ー実施業者の立場から

伊藤 寛臣 (こころとからだの元氣プラザ こころの健康相談室)

S5-3 ストレスチェック実施に際しての留意点ー産業医の立場から

角田 透 (杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

ストレスチェック実施によるカウンセリングサービスへの影響 Stress check and its effects on the counseling services

【企画趣旨・狙い】

ストレスチェックが始まり1年が経とうとしています。結果を活用してメンタルヘルスの推進を図るにはどのように進めるのがよいのか、手探りの会社が多いと思われれます。そこで、個人への対応としてストレスチェック後のカウンセリングについて、また企業に対しては、どのように対応するのがよいのか、という二つをテーマとし、講演者から有用なお話を伺える機会としたい、と考えています。

座長：角田 透 (杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

S6-1 EAPカウンセリングにおけるストレスチェック結果の活用

瀬戸山 聡子 (ピースマインド・イーブ株式会社、国際EAP研究センター)

S6-2 ストレスチェック後の職場へのアプローチについて

前田 一寿 (株式会社ロブ、大妻女子大学キャリア教育センター)

レジリエンスの多文化比較

Resilience across multicultural society

【企画趣旨・狙い】

昨今、レジリエンスという概念が一般化し、多くの分野でレジリエンスという観点から議論がなされるようになった。レジリエンスという言葉の包含する意味は幅広く、疾患や逆境をはねのける力と解釈されることもあれば、人が生きていく中で元来備えている資質に近いものと考えられることもある。それぞれ専門とする領域の差異もあるが、地域や文化による影響といったものもあり、特に宗教性や風俗によって異なると考えられる。そこで本シンポジウムでは多文化の比較ということで、文化や宗教性から見た日本と西洋の違いを論じ、また国内においても島部をはじめとする郊外と都市部との異同について論を展開していきたい。

座長：下田 和孝（獨協医科大学精神神経医学講座）

坪井 貴嗣（杏林大学医学部精神神経科学教室）

S7-1 レジリエンスと霊性 –人間学の見地から–

濱田 秀伯（おおてまちメンタルクリニック）

S7-2 統合失調症患者のレジリエンス： 日本とオーストリアにおける比較文化的検討

水野 裕也（キングス・カレッジ・ロンドン精神医学研究所精神病研究部門、
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室）

S7-3 都市部と島嶼部におけるレジリエンスの比較

吉田 和生（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室）

市民公開講座

10月30日(日) 15:30～17:00

第1会場

心豊かに生きるコツ：マインドフルネス

【企画趣旨・狙い】

ストレスに溢れる現代社会で、私たちは、「過去」を後悔したり、「未来」を案じつつ、今にしながら、「今」を生きることができなくなっています。「過去」や「未来」についての考えに囚われてしまうと、「頭の中で生きる」ことになってしまい、本当の世界に触れられなくなってしまいます。その結果、ストレスが増し、人生が貧しいものになってしまうのです。こうした状況に対処するための方法の一つとして、本講座では「マインドフルネス」を紹介します。マインドフルネスの概念とともに、簡単なエクササイズを実施することで、マインドフルネスがどのようなものか体験していただくことを考えています。

座長：大野 裕（大野研究所）

COL

演者：藤澤 大介（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、慶應義塾大学病院緩和ケアセンター）

佐渡 充洋（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、慶應義塾大学ストレス研究センター）

教育セミナー（ランチオン、イブニング）

教育セミナー 1（ランチオン） 10月29日(土) 11:50～12:50

第1会場

共催：大塚製薬株式会社

職場のメンタルヘルスの対応 ーストレスチェック制度の意義・課題を含めてー

座長：五十嵐良雄（医療法人社団雄仁会メディカルケア虎ノ門）

演者：中村 純（社会医療法人北九州病院・北九州古賀病院）

教育セミナー 2（ランチオン） 10月29日(土) 11:50～12:50

第2会場

共催：ヤンセンファーマ株式会社

成人期ADHD診断と治療 ～ASDとの併存も含め～

座長：鈴木 映二（東北医科薬科大学医学部精神科学教室）

演者：太田 晴久（昭和大学附属烏山病院 昭和大学発達障害医療研究所）

教育セミナー 3 (イブニング) 10月29日(土) 17:10～18:10

第1会場

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社

がん患者さんのうつと不安－薬物療法と非薬物療法の使い分け－

座長：西村 勝治 (東京女子医科大学医学部精神医学講座)

演者：藤澤 大介 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、慶應義塾大学病院緩和ケアセンター)

教育セミナー 4 (ランチオン) 10月30日(日) 11:40～12:40

第1会場

共催：田辺三菱製薬株式会社／吉富薬品株式会社

強迫症における抑うつとの相互作用と臨床的意義

座長：井上 猛 (東京医科大学 精神医学分野)

演者：松永 寿人 (兵庫医科大学 精神科神経科学講座)

教育セミナー 5 (ランチオン) 10月30日(日) 11:40～12:40

第2会場

共催：MSD株式会社

ストレス応答と適応破綻としての慢性不眠症とその効果的な対処法

座長：太田 敏男 (埼玉医科大学 神経精神科・心療内科)

演者：三島 和夫 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神生理研究部)

座長：田中 克俊（北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学）
岡本 博照（杏林大学保健学部 公衆衛生学）

- ①-1 新卒当時を経て看護師が仕事上の困難への対処の仕方を見出すプロセス
柏 美智¹⁾、小山 千加代²⁾
¹⁾新潟大学医学部保健学科、²⁾新潟大学大学院保健学研究科
- ①-2 メンタルヘルス不調者の復職支援で管理職者が抱える困難感の検討：
共感性の観点から
並木 伸賢¹⁾、佐藤 秀樹¹⁾、伊藤 理紗¹⁾、矢島 涼¹⁾、鈴木 伸一²⁾
¹⁾早稲田大学大学院人間科学研究科、²⁾早稲田大学人間科学学術院
- ①-3 勤労者こころのメール相談の役割(第3報)レジリエンスの視点から
山本 晴義、横内 彌生
横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター
- ①-4 職業性ストレス簡易調査を使った若手医師における職場のストレス状況
について
久保 位可子¹⁾、平井 伸英²⁾、宮崎 泰成²⁾、岡安 香¹⁾、櫻井 芳美²⁾
¹⁾東京医科歯科大学職員健康管理室、²⁾東京医科歯科大学学生支援・保健管理機構保健管理センター
- ①-5 2年連続で精神的な高負荷の職場環境にしながらストレス反応が改善した
社員から判ること
金子 多香子、亀山 晶子、柴田 稔久
株式会社日本ヴィクシー・コーポレーションウェルビーイング研究所
- ①-6 チャットカウンセリングの実用可能性－EAPにおける検証－
藤井 奈津子¹⁾、渋谷 英雄^{1,2)}、市川 佳居^{1,3)}、松井 知子³⁾、角田 透^{1,3)}
¹⁾ピースマインド・イーブ(株)国際EAP研究センター、²⁾東洋大学、³⁾杏林大学
- ①-7 労働時間の質的側面が看護師のワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響
渡辺 真弓、山内 慶太
慶應義塾大学健康マネジメント研究科

①-8 職業性ストレス簡易調査票によるストレス評価と傷病による休務との関連についての検討

井田 浩正¹⁾、中川 和美²⁾

¹⁾SOMPOリスケアマネジメント株式会社ヘルスケア事業本部企画開発部、

²⁾東京工科大学医療保健学部作業療法学科

一般演題② その他

10月29日(土) 13:00～14:30

第3会場

座長：岩満 優美（北里大学大学院医療系研究科医療心理学）

菊地 俊暁（杏林大学医学部精神神経科学教室）

②-1 生体のストレスとは生体の回復力と理解される

浅見 自生

特定非営利活動法人救急法&メンタルヘルス研究会

②-2 生体の歪とは生体の本来の形(状態)からの変形量と理解される

浅見 自生

特定非営利活動法人救急法&メンタルヘルス研究会

②-3 パーキンソン病入院患者の音楽療法～病期にみる表現とレジリアンス～

久保田 牧子¹⁾、高橋 和奈枝²⁾

¹⁾昭和音楽大学、²⁾長野医療衛生専門学校

②-4 遺体を取り扱う葬儀業者が抱える感染に関連した不安の現状

城戸 滋里¹⁾、平尾 百合子²⁾

¹⁾北里大学看護学部、²⁾山梨県立大学看護学部

②-5 富山県における自殺対策格差の検討ーゲートキーパー育成とその課題ー

立瀬 剛志¹⁾、藤森 純子²⁾、野上 睦美³⁾、赤崎 有紀子⁴⁾、関根 道和¹⁾、鈴木 道雄⁴⁾

¹⁾富山大学大学院医学薬学研究部疫学・健康政策学、²⁾NPO法人みどりの風、

³⁾金城大学看護学部看護学科、⁴⁾富山大学医学薬学研究部神経精神医学

②-6 認知行動療法を用いた面接による自動思考改善の取り組み

釜 英介、遠山 梓、栗原 順子

都立小児総合医療センター

座長：井上 猛（東京医科大学精神医学分野）

坪井 貴嗣（杏林大学医学部精神神経科学教室）

③-1 **がん医療に携わる心理士のストレスとその要因に関する検討**

中島 香澄¹⁾、平沼 里紗²⁾、村上 尚美²⁾、白井 教子²⁾、田中 克俊³⁾、岩満 優美²⁾

¹⁾東京医療学院大学保健医療学部、²⁾北里大学大学院医療系研究科医療心理学、

³⁾北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学

③-2 **日本語版スマートフォン依存スケールの開発**

江副 智子¹⁾、飯田 忠行²⁾、井上 顕³⁾、戸田 雅裕⁴⁾

¹⁾島根大学保健管理センター、²⁾県立広島大学保健福祉学部、

³⁾群馬大学大学院医学系研究科社会環境医療学、⁴⁾ノートルダム清心女子大学人間生活学部

③-3 **対人過敏/自己優先尺度短縮版作成の試み：社会人サンプルを対象とした因子構造の確認**

亀山 晶子¹⁾、山川 樹¹⁾、村中 昌紀²⁾、坂本 真士¹⁾

¹⁾日本大学文理学部、²⁾日本大学大学院

③-4 **精神疾患のレジリエンスとリカバリーについて－インタビュー調査から**

横内 彌生^{1,2)}、山田 一那^{3,4)}、島田 栄子^{3,5,6)}

¹⁾カウンセリングルーム薫風堂、²⁾横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター、

³⁾文京学院大学心理臨床センター、⁴⁾立川駅前オアシスメンタルクリニック、⁵⁾文京学院大学大学院、

⁶⁾自立会さいとうクリニック

③-5 **看護職者の針刺し事故防止に関する知識・実践と職業性ストレス－失敗傾向との関係から**

城戸口 親史¹⁾、中島 香澄²⁾、北里 美和¹⁾、岩満 優美¹⁾

¹⁾北里大学大学院医療系研究科医療心理学、²⁾東京医療学院大学保健医療学部

③-6 **精神疾患のレジリエンスとリカバリーの関係について－質問紙調査から－**

山田 一那^{1,2)}、島田 栄子^{1,3,4)}、横内 彌生^{5,6)}

¹⁾文京学院大学臨床心理相談センター、²⁾立川駅前オアシスメンタルクリニック、

³⁾文京学院大学大学院、⁴⁾自立会さいとうクリニック、⁵⁾薫風堂カウンセリングルーム、

⁶⁾横浜労災病院

③-7 レジリエンスとしての行動傾向の効果：K6およびCES-Dで示されるうつとの関わり

海原 純子¹⁾、錦谷 まりこ²⁾

¹⁾日本医科大学医学教育センター健診医療センター、

²⁾九州大学持続可能な社会のための決断科学センター

③-8 日本に滞在する学部留学生と日本人学生との精神健康調査および生活調査の比較

林 葉子¹⁾、スパルティニ アティン²⁾、青木 和夫^{1,3)}、熊谷 秋三^{2,4)}

¹⁾公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター、²⁾九州大学大学院人間環境学府、

³⁾日本大学理工学部、⁴⁾九州大学基幹教育院

③-9 PHRFストレスチェックリスト・ショートフォームの併存的妥当性の検討

今津 芳恵^{1,2)}、村上 正人^{1,2,3)}、松野 俊夫²⁾、原田 亜紀子⁴⁾

¹⁾公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター附属ストレス科学研究所、

²⁾日本大学医学部付属板橋病院心療内科、³⁾国際医療福祉大学・山王病院心療内科、

⁴⁾中央大学理工学部

③-10 総合病院における動物介在療法
－医療者のニーズと展開方法に関する検討－

饗庭 尚子^{1,2)}

¹⁾北里大学大学院医療系研究科、²⁾北里大学メディカルセンター

一般演題④ 生体・レジリアンス

10月30日(日) 9:30～10:45

第3会場

座長：島田 直樹（国際医療福祉大学 基礎医学研究センター）

田中 謙二（慶應義塾大学医学部精神神経科学教室）

④-1 発達障害の長期睡眠不足状態における逸脱行動とレム関連症状の増加について

中島 亨

杏林大学医学部精神神経科学教室

④-2 ストレスとシミとの関係解析

望月 慶太¹⁾、吉田 典央²⁾、摩庭 萌乃¹⁾、武川 朋代¹⁾、早川 淳一¹⁾、有田 秀穂²⁾、
岩井 一郎¹⁾

¹⁾サティス製薬研究部、²⁾メディプラス研究所

- ④-3 ストレス適応および非適応モデルマウスの脳内における5-HT_{1A}受容体細胞内分布の特徴
宮岸 寛子、辻 稔、宮川 和也、齋藤 淳美、黒川 和宏、武田 弘志
国際医療福祉大学薬学部薬理学分野
- ④-4 毛髪・爪に含まれるストレス・ホルモンの定量手法の検討
吉田 怜楠¹⁾、山口 歩¹⁾、大平 雅子²⁾、井澤 修平³⁾、野村 収作¹⁾
¹⁾長岡技術科学大学、²⁾滋賀大学、³⁾労働安全衛生総合研究所
- ④-5 脳波計測を用いた就労者向けヨーガ療法ストレスマネジメント介入の効果検討
村上 真、水上 勝義
筑波大学大学院人間総合科学研究科
- ④-6 KHGゲルマニウムネックレスは、パソコン操作によるストレスを軽減する
植田 味佐¹⁾、青木 道夫²⁾、小笠原 重雄³⁾
¹⁾国立大学法人高知大学退職後フリーエージェント、²⁾青木脳神経外科形成外科、
³⁾株式会社ハイパワーセーカー

一般演題⑤ 発達・母子

10月30日(日) 13:30～14:30

第3会場

- 座長：村上 正人（国際医療福祉大学、山王病院心療内科）
藤澤 大介（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、慶應義塾大学病院緩和ケアセンター）
- ⑤-1 自閉症児をもつ母親の障害受容過程
－テキストマイニングによる語りの分析－
太田 雅代、山内 慶太
慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科医療マネジメント専修
- ⑤-2 東日本大震災を契機に転居した母親の子育てストレス
－福島県の被災者を対象として－
鈴木 優里香、宮岡 佳子
跡見学園女子大学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻
- ⑤-3 成人発達障害専門デイケア参加が成人発達障害患者に与える影響
藤田 七海¹⁾、宮岡 佳子^{1,2)}
¹⁾跡見学園女子大学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻、²⁾公益財団法人神経研究所附属晴和病院
- ⑤-4 難治性うつ病における家族の感情表出の実態調査
今村 弥生、渡邊 衡一郎
杏林大学医学部 精神神経科